# 京大広報

号外　2012.4

## 目次

〈卒業式・大学院学位授与式〉
卒業式における総長のことば……3622
大学院学位授与式における総長のことば……3624

〈大学の動き〉
平成23年度卒業式……3626
平成23年度大学院学位授与式……3626

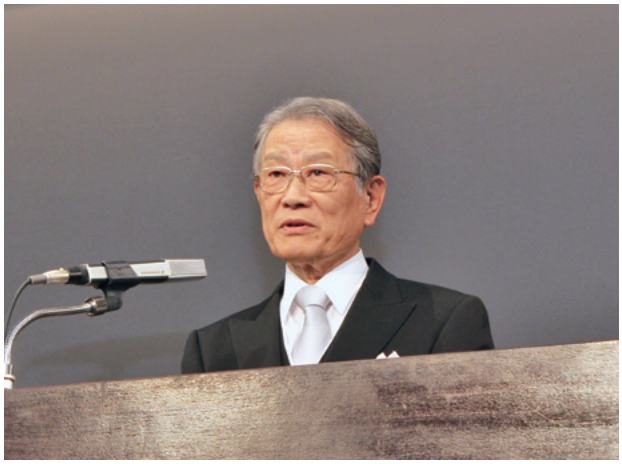
平成23年度　卒業式

京都大学渉外部広報・社会連携推進室
http://www.kyoto-u.ac.jp/

## 卒業式・大学院学位授与式

### 卒業式における総長のことば

平成24年３月27日
総長　松　本　　紘



本日，ご来賓の尾池和夫前総長，列席の副学長，学部長，部局長をはじめとする教職員一同とともに，2,818名の皆さんに学士の学位を授与する運びとなりました。学士課程を無事修了され，学位を得られたことに深く敬意を表するとともにお慶びを申し上げます。京都大学の115年の歩みの中で，皆さんを含めて本学の卒業生の累計は，191,105名となり，皆さんの前に約19万人もの先輩が歩んでいることになります。

併せて，ご家族ならびに関係者の皆様よりいただいた今日の卒業式を迎えるまでの数々の厚いご支援に対し，大学として御礼申し上げます。そして，卒業生の皆さんには，これまでのご家族の負担や支援を肝に銘じ，この機会に感謝の気持ちをご家族に率直に伝えるよう希望します。

我が国は，昨年の３月11日に未曾有の東日本大震災に見舞われ，復興への力強い槌音（つちおと）は聞かれるものの，まだ道は半ばという状況にあります。この厳しい時代に皆さんは一市民として，また，今後社会のリーダーとして京都大学で培われた人間力を基礎に，持てる力を発揮し，世界を舞台に我が国と人類社会の未来を切り拓いてほしいと思います。

そのために大学院進学の皆さんは，専門ごとに分かれてこれからさらに学術に磨きをかけることに力を注いでください。一方，社会に羽ばたく皆さんは，職場では社会の様々な問題とこれから日々格闘していかねばなりません。いずれの道にすすむにせよ，これから歩む長い人生において大学生活で身につけた知識や体験ではまだまだ十分とはいえず，途方に暮れるような，試練に直面することでしょう。その際には，大学での学びを基礎に常に柔軟かつ強靭に思いをめぐらせ，道を切り拓いていってほしいと思います。

芸術の世界においては，芸が観客の心に染み入るには，作りごとと実際のどちらともいいがたいような微妙な兼ね合いが大切であるといわれています。虚のみならず，実のみならず，その境界である皮膜にこそ芸の妙があるとする，この虚実皮膜論は江戸時代の劇作家近松門左衛門が語ったものとされています。

私は，この虚実皮膜論は芸のみならず，人生そのものにも通じると思います。我々は日々の思考において，「虚」と「実」の双方をめぐらしています。「虚」には，「実」でないこととして，今現実のものとはなっていないけれど，「こうしたい，こうありたい」という内容を含めることができます。これは当然まだできておらず，実現していないものです。例えば，理想や夢といったものを「虚」に数えてもいいでしょう。一方で，「実」，すなわち現実は我々の周りに確かに存在します。現実から離れすぎると何も具体化することはできません。我々は，この「虚」と「実」を行き来しながら，そのどちらかに埋没するのではなく，その虚実の皮膜で起こるせめぎあいを通じて，心にある意志をこの世の中で実現させていく存在なのではないでしょうか。

学問の世界にも虚実があるとされます。学問の虚実は虚学と実学で代表されます。実学は平たくいえば，実際に役に立つ学問であり，虚学はそうではない学問，すなわち直接又は今すぐ何かの役には立たない学問です。皆さんの学んできた学問分野がどちらに分類されるかを議論してもあまり意味はありません。その境界はかなりあいまいだからです。

それよりむしろ学問における「虚」と「実」の役割を考えることの方が重要です。そもそも研究は，理性の力で「実」を見ながら「虚」を追及するという形ですすめられます。いいかえると，研究者の研ぎ澄まされた感性で実の根源を探りながら，頭の中で「虚」の世界を構築し，「実」の根源を解明していこうとします。このように，学問は，実体をもとに，実体から離れた抽象論を積み重ね，作り上げられていくものなのです。事実を集積するだけでは学問とはいえず，それらを抽象化して，原理原則を打ち立てることに学問の真骨頂があり，それがひいては幅広い「実」につながっていくものなのです。その意味で，学問もその本質はこの虚実のせめぎあい，それが行われる虚実皮膜にありといえるのかもしれません。

この虚実皮膜で抽象化されていることは，一種の理念と現実の格闘とみなしてもいいかもしれません。志によってデザインされたこの虚実皮膜にこそ人生の醍醐味と真実があります。そして，虚実皮膜の厚みや豊かさを決めるのが，皆さんのこれまで培ってきて，今後ますます蓄積しなければならない，教養なのです。これからも教養を深めることを怠ってはならない所以です。

本日の卒業式で一つの区切りをつけ，新しいスタートラインに立つ皆さんを，京都大学はこれからも応援していきます。卒業する皆さんがときには母校を訪ね，語らい，また，同窓会活動の場として，また，生涯の学習の場として京都大学を人生の基軸として積極的に活用していただけるよう願っています。

卒業して，社会で活躍される皆さんには，様々な場所で，京都大学で身につけた自学自習の精神を活かして活躍されることと思いますが，一方で皆さんの母校である京都大学で研究教育を続ける研究者の応援もぜひお願いします。また，修士課程に進学され，大学院で研究を続ける人も多いと思いますが，私は京都大学が優秀な人材を活かせる大学であるように，学内外で必要となる改革を進めていきたいと考えています。

最後に，今後も絶えず自らを省みて，身体を鍛え，こころを磨き，人の痛みや社会の問題を敏感に感じ取れるよう，バランス感覚を大切にし，知勇兼備の人としてご活躍されることを願い，「虚実」の間を良く考え生きていかれることを期待し，学士の学位を授与された皆さんへの私の餞（はなむけ）の言葉といたします。

本日は誠におめでとうございます。

# 大学院学位授与式における総長のことば

平成24年3月26日

総長　松　本　　紘

本日，京都大学から修士の学位を授与される2,138名の皆さん，修士(専門職)の学位を授与される144名の皆さん，法務博士(専門職)の学位を授与される159名の皆さん，博士の学位を授与される667名の皆さん，誠におめでとうございます。

学位を授与される皆さんの中には，710名の女性と318名の留学生が含まれています。累計すると，京都大学が授与した修士号は65,639，修士号(専門職)は771，法務博士号(専門職)は1,259，博士号は39,349となります。ご来賓の沢田敏男元総長，列席の副学長，研究科長，学舎長，教育部長，研究所長をはじめとする教職員一同とともに，皆さんの学位取得を心よりお祝い申し上げます。

この会場には，学位を授与される皆さんのご家族，ご友人，関係者の皆様が多数お集まりのことと存じます。学位を授かる皆さんは，これらの方々からこれまで受けた長年にわたる支援に対して感謝の気持ちをこの式典の後，率直に伝えてください。私たち教職員一同も，ここに至るまでの皆様方の様々なご苦労やご支援に対して御礼を申し上げ，今日の喜びを分かち合わせていただきたいと思います。

さて，これまで皆さんの在籍してきた大学院は厳しい研鑽の場であったかと思います。皆さんの中には，何度も挫折しそうになり，苦悩の日々を経験された人もいるでしょう。皆さんはそれらを乗り越え，大学院において専門を修め，その専門において自樹自立できる力を本日，京都大学学位の授与という形で認められました。これからは何ものにも臆することなく，授けられた学位を誇りとし，身につけた専門を生かして，そのうえで自らの豊かな個性を発揮し，未曾有の国難に見舞われた日本を蘇らせ復興させ，さらには大いに日本国を発展させる大きな原動力になってほしいと願っています。また，将来的には人類が直面する多岐にわたる困難な問題，課題に果敢に挑戦し，それらの問題の解決に大きな貢献をされることを期待します。「学問とは真実をめぐる人間関係である」と私は信じています。人の苦しみ，痛みを敏感に感じ，相手の立場，人類社会の状況をよく斟酌しながら，多くの人々と豊かに綾なす人生を歩まれんことを願っています。

修士の学位，修士(専門職)，法務博士(専門職)の学位を授与された皆さんの中には，独創性あふれる学位論文を完成させたり，大学院において専門分野の真髄にふれることができた方も多数おられるでしょう。小成に安んずることなく，今後ますます研鑽を積んで社会において大輪の花を咲かせていただきたいと思います。

博士の学位を授与された皆さんには，専門を深く穿ち，他人が成し得なかった独創的な仕事を成し遂げたという誇りと自信がこれからの人生の力強い推進力となることでしょう。あげられた研究成果は今後，時の試練を経て，一層輝き続けるもの，あるいは陳腐化していくものに分かれます。しかし，それを作り上げる過程で傾けた努力や体験した悩みや成し遂げたときの喜びは皆さんの人格を磨いてきたはずです。これからの人生で直面する苦しいときや追

いかけるべき課題を見失ったときには博士論文の完成に費やした研鑽の日々を思いだして，チャレンジする強い意志と信念を呼び戻していただきたいと思います。

昨年は想定外という言葉が巷に氾濫しました。想定とは「想」を定めることであり，思考の範囲を確定することです。その想定の外のことであり，思考の範囲を越えたので我々の手に負えませんでしたと言うようでは，あまりに無責任と多くの国民は日本のリーダーたちや科学者に憤ったのではないでしょうか。今後皆さんが，社会のリーダーになっていくためには，遠い未来のビジョンを示せなくてはなりません。私自身にとっても30年先のビジョンは示し難いものです。100年後というと，さらに難しい。しかし，手がかりがないわけではありません。100年後の世界を見ようと思ったら，知識を集め，これまでの歴史を振り返り，足元の現実を見，そして想像力を働かせることが必要です。我々が今生きている世界の現実とこれから実現する技術や社会の進歩を考えて，何年後には世の中はどう変わるであろうかを見通していくことが重要なのです。これが「想」の中の一つ「予想」です。しかし，それだけでは未来のビジョンにはなりません。確固とした意志の下，100年目にはこういう世界を作りたいという「夢想」と「理想」があってこそビジョンは生まれます。「空を飛びたい」という夢想が現実になって，飛行機は生まれました。現実には夢想の実現を妨げる様々な桎梏（しっこく），すなわち足かせ手かせがありますが，高い志を持つことでそれと奮闘し，乗り越え，夢想は現実のものとなるのです。不羈不絆（ふきふはん），つまり何ものにも束縛されない夢想の力は突破に向けての大きな原動力になります。しかし，それだけではなお不十分です。夢想は個人の夢にとどまることが多く，社会全体にその夢が共有されるとは限らないからです。社会全体で共有し得るものこそ「理想」です。これら予想・夢想・理想をたてる能力が無ければ，ビジョンを語ることは不可能なのです。最終的にその全ての「想」を上手く使っていくことが，未来を切り拓くためにはとても重要です。それは同時に社会や文明を設計することにも通じます。これらの能力と強固な意志こそがリーダーの持つべき重要な資質であり，皆さんにますます鍛えていただきたいと私が希望するものです。

皆さんのこれから歩む人生において一層の知識や経験が必要となる時がやってくるかもしれません。その際には，皆さんが学びしこの京都大学を思い出し，基本に立ち戻ってください。すると予想もしなかった角度から光がさし，新たな可能性を見つけ出すことができるでしょう。また，折に触れ母校を訪れてください。皆さんと京都大学との縁は，同窓会や生涯の学びを通じてこれからも続きます。京都大学は皆さん一人一人の人生の基軸になりたいと思います。

国家の危機的な財政状況や国難ともいえる大震災の下，本学も改革待ったなしの状況に立たされています。京都大学は今後一層努力を重ね，常に物事の根源を見つめ，根源を解き明かそうとする大学，基本すなわち本を務むる大学として世界一をめざしたいと思っています。皆さんにおいても，母校を温かく見守り，ご支援いただきますようお願いいたします。

最後に，本日学位を手にされました3,108名の皆さんが，持てる力のすべてを生かしきり，これまでの研鑽において培われてきた豊かな人間力を今後ともさらに磨き続け，世界のリーダーたるべく高度な教養を身につけ，いきいきと活躍することを願い，「想」という言葉を私の餞（はなむけ）といたします。

本日は誠におめでとうございます。

# 大学の動き

## 平成23年度卒業式

３月27日（火）午前10時から，京都市勧業館みやこめっせにおいて，尾池和夫前総長をはじめ各副学長，各部局長等の出席のもとに平成23年度卒業式が挙行された。学歌斉唱に引き続き，松本　紘総長が各学部代表に学位記を授与した。

続いて松本総長の式辞があり，最後に全員で「蛍の光」を合唱して，午前10時40分に終了した。

新学士は計2,818名であり，学部別での卒業者数は総合人間学部111名，文学部232名，教育学部61名，法学部321名，経済学部258名，理学部277名，医学部（医学）103名，医学部（人間健康科学）136名，薬学部（薬学）27名，薬学部（薬科学）53名，工学部920名，農学部319名であった。

（学務部）

## 平成23年度大学院学位授与式

３月26日（月）午後２時から，京都市勧業館みやこめっせにおいて，沢田敏男元総長をはじめ各副学長，各部局長等の出席のもとに平成23年度大学院学位授与式が挙行された。

松本　紘総長が修士，修士（専門職），法務博士（専門職）の各研究科，学舎，教育部代表に学位記を授与し，続いて博士出席者全員に学位記を授与した。その後，総長の式辞があり，午後４時２分に終了した。

修士学位の修了者は計2,138名であり，学位に付記する専攻分野の名称別では文学96名，教育学37名，法学15名，経済学30名，理学277名，医科学25名，人間健康科学42名，薬科学62名，工学683名，農学286名，人間・環境学155名，エネルギー科学127名，地域研究21名，情報学168名，生命科学73名，地球環境学41名であった。修士（専門職）学位の修了者は計144名であり，社会健康医学28名，公共政策35名，経営学81名であった。法務博士（専門職）学位の修了者は159名であった。

博士学位は平成23年11月24日付け，平成24年１月23日付け，３月26日付けの計667名に授与された。課程博士取得者は計589名であり，学位に付記する専攻分野の名称別では文学28名，教育学10名，法学12名，経済学24名，理学113名，医学73名，医科学６名，社会健康医学６名，人間健康科学３名，薬学26名，薬科学４名，工学121名，農学50名，人間・環境学38名，エネルギー科学10名，地域研究18名，情報学20名，生命科学14名，地球環境学13名であった。論文博士取得者は計78名であり，学位に付記する専攻分野の名称別では，文学14名，教育学３名，法学５名，経済学３名，理学３名，医学６名，社会健康医学１名，薬学２名，薬科学１名，工学19名，農学13名，人間･環境学２名，エネルギー科学１名，地域研究２名，生命科学１名，地球環境学２名であった。

（学務部）



ご意見・ご感想をお寄せください。
京都大学渉外部広報・社会連携推進室　〒606-8501　京都市左京区吉田本町　E-mail：kohho52@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp